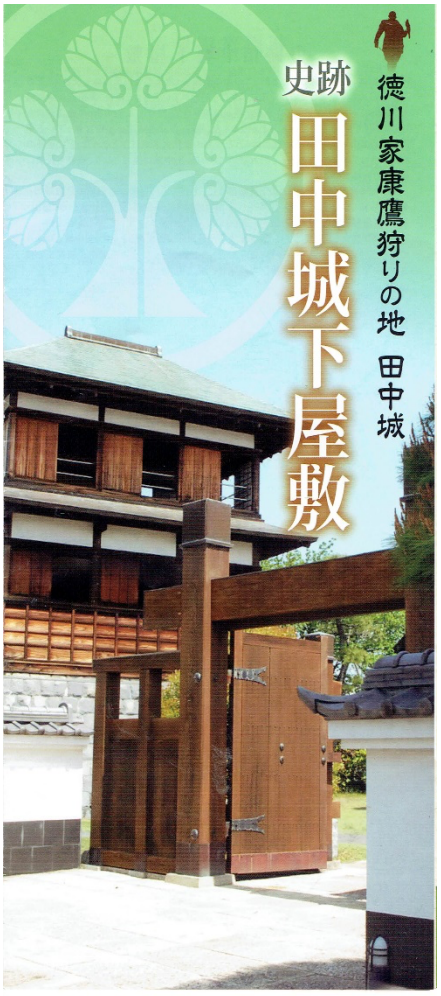
静岡発「ケナフ・ネット・ニュース」第 13 号（令和　5 年)2023.3.3 1 .（金）

静岡県地域文化と歴史の一端の紹介
藤枝市は静岡市のお隣りで豊かな自然と地域文化の町です

（文責）鮫 島 一 彦　（ケナフ協議会・静岡グループ）
ケナフ協議会会長・高知大学名誉教授

★ケナフ協議会 HP の QR コード
→

ケナフ協議会の 202 2 年度（2022 年 4 月から 2023 年 3 月）の事業は世界的なコロナや気象異常などの影響で、2021 年度と同様に、充分な活動できませんでしたが、年度末（2022 年 1 月 20 日)、新しい事業として、第 1 回勉強会を特別講演会と工場見学会を合わせて Zoom を利用して実施されました。



「紙おむつリサイクル事業」とともにケナフやバイオマスの利用技術がさらに進展し、子供から高齢者まで地域社会の全ての分野の皆さんと協力しながら、地球環境、経済、生き甲斐など、地域社会のへの発展に貢献できるように頑張りましょう。

全国的には、各地でそれぞれケナフ関係の事業は適用範囲を広げながら依然としてその新しい可能性を見出し続けており、新たな事業も発展するはずです。即ち、202 3 年度以降も世界のＳＤＧｓの取り組みと連動した形で、30 年以上の歴史を持つケナフ協議会の伝統技術を発展させながら新しい取り組みを続けることは確かです。

静岡グループでは、2023 年度も、ケナフの栽培、タケノコ掘り、交流会など多彩な活動を予定しています。これまで、静岡グループの参加者は子供から高齢者、現役世代がそれぞれの都合のつく範囲で参加する形で活動を続けていま

す。202 2 年度はコロナ禍の影響を受けて、活動は大きく制限を受けました。専門分野もさまざまで、国内に限らず、海外関係のメンバーも参加しています。

2022 年度は 2021 年度に引き続く、気候変動、コロナ禍などの影響を強くうけました。藤枝市の仁藤由英会員（高知大学卒、鮫島一彦会長の最後の教え子）は、産業廃棄物処理の専門家で、西日本のみならず、海外との関係でも事業を展開しています。沖縄のケナフ協議会事務局と大牟田の「紙おむつリサイクル工場の訪問を計画しましたが、事務局同様、コロナ禍の影響を強く受け、完全な形での実行ではきませんでした。これは、世界的な困難とも連動しています。しかし、その困難な状況から、新たな参加者が加わり、活動分野がさらに広がり始めています。特に、異分野の参加者が増えてきています。

藤枝市には、徳川家康鷹狩りの地、である史跡田中城下屋敷があります。静岡市と異なり、第二次世界大戦での空襲の被害が無かったために、数多くの史跡が残り、伝統文化が保存され、さらに発展しようとしています。

日本アルプスの南の清水が流れ、富士山の山岳信仰、お茶や農林水産業の技術遺産も受け継がれており、近代的あスポーツ施設の充実もすすんでいます。今後はその環境・文化資源の活用の核として、富士市地区などとともに発展することが期待されています。

藤枝駅に隣接して、静岡産業大学藤枝キャンパス　藤枝市産学連携推進センター（ViBi 藤枝）があり、2023 年 2 月 24 日にはシンポジュウム「のこしたい　ことばがが開催されました。

静岡産業大学は静岡理工科大学とともに産学官連携事業を推進しており、今後さらなる新しい展開が期待されます。

アイヌ文化との共通性など静岡の奥地の文化は、世界の伝統文化の見直しとも共通したところがあります。

世界は資源のリサイクルのみでなく、廃棄物処理の高度化と資源化の現代的な発展を期待しています。紙おむつリサイクルとケナフ栽培、農林水産資源問題との連携の実績を日本で発展させ、今後のバイオマス資源の総合的な利用発展を追求することは世界文化の発展にも寄与できる重要な課題です。静岡県は藤枝市、富士市で、多くの廃棄物処理技術の実績・蓄積があり、今後さらに高度に発展させる必要があります。

（K.Sameshima、2023.3.31.）

ケナフ協議会では、この春もケナフ種子の販売を行います。既に会員登録をされている方には、会員価格で販売します。非会員の方には非会員価格でお願いします。発芽試験済みの種子を静岡から会長鮫島一彦が送付します。限定販売です。
価格や注文方法などについては、電話 090-8286-8015 、ファックス 054-663-6257、あるいは郵送で、鮫島にまず連絡してください。納品書、請書、領収書など書類については沖縄の事務局から送付します。